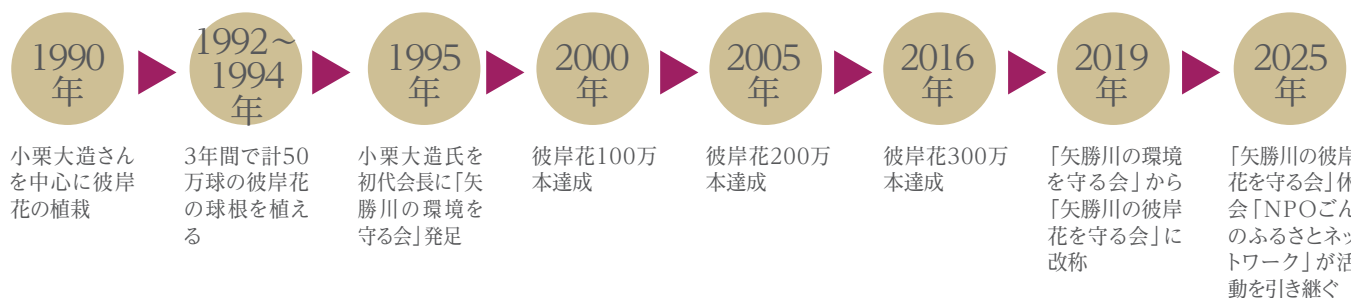


一人の想いから、ふるさとの景色に



矢勝川の彼岸花を守る会(旧:矢勝川の環境を守る会)

地元有志らで「童話の里づくり」を合言葉に1995年に発足。「ごんぎつね」に登場する矢勝川沿いの景観美化に取り組み、2019年には「矢勝川の環境を守る会」から「矢勝川の彼岸花を守る会」に改称。高齢化による担い手不足により2025年をもって休会。



▲矢勝川の環境を守る会のメンバー(2000年頃)

NPO法人 ごんのふるさとネットワーク

新美南吉の想いである「人と人が支え合い、調和する世界」に共感する人々を繋げ、新たな地域資源の発掘や保全、活用を行う。「矢勝川の彼岸花を守る会」から彼岸花植栽事業を受け継ぎ、童話の里の風景とその想いを未来に継いでいくために活動中。



▲活動の様子



…………… 守り続ける ふるさとの景色 ……………

風景は、ただ守ろうと思うだけでは守り続けられません。

300万本の彼岸花も、美しく咲かせるためには、草刈りや補植など一年を通じた地道な管理が必要です。

綺麗に咲かせるために、地域の人々が力を合わせて活動を続けています。

美しい彼岸花が咲くまで



▲矢勝川沿いの堤防と周辺の草刈り



▲球根の株分け



彼岸花の葉が少ない場所を掘りおこし、草の根と球根を手で分けていきます。

次代を担う子どもたちも植栽活動に参加



彼岸花の球根を植える活動には、地域の子どもたちも参加しています。「芽の方を上にして植えるんだよ」という説明を聞きながら、小さな手で球根をひとつひとつ土に植えていきます。